

若シ日本カ他国ニ対シ攻撃的ノ戰ヲ為サンコトヲ意図セハ今日ノ日本案ハ日本ニ都合悪シキ次第ニシテ攻撃ノ為ニハ航空艦ノ廃止ハ不便ナリ相手国カ潛水艦ヲ保有スルハ不都合ナリ而モ本提案ヲ為セルヲ見レハ日本ニ攻撃ノ意図ナキヲ知ルヘシト述ヘタリ

(二)ニ付テハ松平大使ヨリ日英米三国カ協同シテ世界平和ノ維持ニ当ルヘキコトハ日本トシテモ大イニ賛成スル処ナルモ右ハ三国カ平等ノ基礎ニ立チテノ協力ナルヲ要ス、幸ニシテ過去十数年間ニ於テハ日米ノ間ニ何等困難ナル事態ノ發生ヲ見サリシモ将来トモ比率ノ觀念ヲ存スルニ於テハ長年ニ亘ル将来ノ両国関係ニ対シ面白カラサル影響ヲ与フルコトナキヤヲ慮ル日本ノ欲スル處ハ平等ノ基礎ノ上ニ立ツ協力ニシテ斯ノ如キ協力ニヨリ始メテ世界ノ平和ヲ確保シ得ヘシト信スル次第ヲ告ケタルカ米国側ハ依然承服セス或ハ製艦競争勃發ノ可能性ヲ説キ或ハ國際平和機構ノ破壊ヲ恐ルル等ノ所論ヲ屢々繰返セリ

第四節 英米会談

英米代表ノ正式会談ハ十月二十九日午后首相官邸ニ於テ第一回会談ヲ行ヒ海軍問題ノ現状ニ付意見交換行ハレタル旨発表セラレタルカ右ニ先立チ十月二十五日「デーヴィス」ハ「マクドナルド」ヲ往訪シ会談シタルカ其ノ際ニハ両国ハ全体トシテ既存條約ニ相互利益ヲ認メ且世界不安ノ増大セル今日三国カ條約ヲ有スルコトカ安定ヲ与フルヲ信シ此ノ大道ヲ基礎トシテ相對的ニ軍備ヲ縮減シ時代ニ応スル修正ヲ然ルヘシト認メ米側ヨリ其ノ修正ヲ申入レタル趣ナリ

其ノ後十一月六日「サイモン」ハ「デーヴィス」ト会見シ翌七日日本側ニ提示ニ先立チ後出英國示唆案ヲ内示シタルカ

越エテ十一月十三日日英米専門家会合ヲ経テ十四日第二回代表会談ヲ行ヒタルカ英側カ依然小艦多数ヲ主張シタルニ対シ米国ハ依然大艦巨砲ヲ必要トル旨ヲ主張シタルカ英國カ多数ノ小艦ヲ必要トル特殊ノ事情ニアルコトハ米国側ニ於テモ之ヲ諒解シ英國側カ新ニ多数ノ小艦ヲ獲得スル場合ニハ米国側ニ対シテモ他ノ艦種ニ於テ多数ヲ認メテ埋合セヲ為スコトヲ主張シ質的制限カ建艦競争防止上最重要点ナリトノ英側主張ハ大体米側モ之ヲ諒解セル趣ナリ

第三章 英国ノ示唆案提示後ノ交渉

第一節 「サイモン」ノ政治的解決私案並ニ建艦宣言ニ關スル英國示唆案

(一)十月三十日松平「サイモン」会談

十月三十日松平大使ハ「サイモン」ト会見本年中ニ華府條約廃止通告方ニ關スル我方決意ヲ更メテ開陳シ共同廃止通告方ニ關スル英國ノ意向ヲ訊ネタル処「サイモン」ハ英國トシテハ華府條約存続ヲ希望スル旨答ヘ防備制限条項ハ日本側ニ有利ナラスヤト反問シ尚米國大統領ニ於テハ華府條約廃止ノ暁ニハ大建艦ノ意アルヤニテ英國トシテハ対米建艦競争ヲ憂慮シ居ル旨述ヘタルヲ以テ松平大使ヨリ防備制限ハ他国側ニモ有利ニ

シテ又我方ハ敢テ対米建艦競争ヲ行フモノニアラス自己ノ要求ニ応シ国防ヲ整備セントスルニ過キサル旨説明シタルカ其ノ際「サイモン」ハ松平大使ニ対シ

共通最大限度設定ニ関スル日本案ニハ英國トシテ到底同意シ難ク又米国モ之ニ同意セサルハ明カナルヲ以テ政治的方法ニ依リ解決ヲ計ルノ要アリト前提シ

(一)日本要求ノ基礎タル「プレステイジ」ノ觀念ハ尤モナルニ付何等カノ宣言ニ依リ日本ノ面目ヲ立ツル一方

(二)建艦競争防止ノ為一定期間ノ建艦計画ニ関シ三國間ニ秘密紳士協定ヲ結ヒ且

(三)日本ノ国防安全感確保ノ為日英米不侵略協定ヲ締結ス（尤モ此ノ場合日本ハ支那領土不可侵ヲ保障スルヲ要ス）

トノ案ヲ「サイモン」一個ノ考トシテ開陳シタルヲ以テ

松平大使ヨリ日本ノ立場ヨリスレハ現在ノ五、五、三、ニテモ米国ハ日本ニ脅威ヲ与ヘスト米国側カ主張シヲルニヨリテ見レハ仮令日米海軍兵力カ均等トナルモ日本ハ米国ニ對シ何等ノ脅威ヲ与ヘサル筈ナリ、更ニ日英米間ニ不侵略協定ヲ結フコトトモナラハ一層米国ニ對シ安全保障ヲ与フル理ナリ又「プレステイジ」ノ問題ヲ考フル時ハ結局同等兵力ヲ要求スルナク又紳士協定ニ於ケル協定兵力カ現在ノ比率ニ依ル趣旨ナラハ我方ニ異議アルヘキモ兎モ角右案ハ廣田大臣ニ伝フヘシト述ヘ置キタルカ要スルニ英國側ニ於テハ日本ノ均等要求ヲ形式的ニ満足セシムルト共ニ実質的ニハ差等ヲ維持スルコトニ依リ米側主張トノ妥協ヲ計ラントノ考ヲ抱キタルモノノ如ク

(二)日英第三回会談（英國示唆案提示）

翌十一月七日日英第三回会談ニ於テ英側ヨリ日本案ノ儘ニテハ安全及保障確保ニ不充分ナルニ付一ノ意見ヲ開陳スルコトトナリタリト前提シ新條約ニ於テ

(一)各国ハ其ノ海軍力ニ関シ平等及均等ノ「プレステイジ」ヲ有スルコトヲ約スルト共ニ

(二)各国ハ其ノ海軍力ニ関シ自發的且一方的宣言ヲ行ヒ之カ集リテ主要国海軍力ノ「トータル、リスト」カ出来上ル仕組トスル

ノ案ヲ開陳シニ関シテハ自發的宣言ヲ為スニ當リテハ他ノ関係国ノ保有セントスル内容ヲ承知シ且其ノ内容ニ付相互ニ協議ヲ行フコトトス、斯ル宣言ノ方法ニヨリ一方ニ於テ各國ハ此ノ宣言ヲ越エテ建造ヲ為ササルコトヲ約スト同時ニ他方之ニヨリテ関係国間ニ一定年限間海軍力ノ均衡ヲ得ントスルモノナルコト即之ニヨレハ第一ニ平等ノ原則ヲ承認シ第二ニ各國海軍力ノ内容ヲ明確ナラシメ第三ニ宣言カ自發的且一方的ノ形トナル利点アリト説明シ「マクドナルド」首相ヨリ本案カ如何ニ日本案ニ「ミート」スルカ承知シ度シト述べタルヲ以テ山本代表ヨリ本案カ實際ニ適用セラル時ニ於テ海軍力ノ現有量ノ縮減ヲ考ヘ得ルヤ又本案ハ現有勢力ヲ出発トシ之ヲ基準トシテ一方的宣言ヲ為スモノナリヤト質問セル處「サイモン」外相ヨリ自發的宣言ノ内容ハ勿論協議ノ目的トナルモノナルモ協議ノ出発点ハ大体現有勢力ヲ基準トセハ可ナルヘシ然ラサル場合ニハ量ニ関シ各國ハ協議ノ標準ヲ失ヒ無制限建艦競争トナル惧アリ又日本カ華府条約ヲ廢止セラルニ於テハ太平洋防備制限協定モ当然失効スヘキ処右制限協定ハ日本ニ有利ナルモノナルヲ以テ之ヲ廢止ス

ルコトハ日本ニ取り不利益ナラスヤト陳ヘタルヲ以テ松平大使ヨリ本案ハ重大ナルモノナルヲ以テ政府ニモ請訓スヘシ、唯太平洋防備制限協定ハ日本ノミナラス他関係国ニモ有利ナル協定ナリ、日本ハ華府条約ヲ廢止スル決意ヲ有スルヲ以テ右制限協定ハ当然失効スヘキ處若シ他関係国ニ於テ本制限協定ニ付協議スル意向ヲ有スルニ於テハ日本トシテモ之ニ応スル考ナリト陳ヘ最後ニ「サイモン」ヨリ本案ハ英國ノ「プロボーザル」ニモ非ス又「プラン」ト云フ程ノモノニモアラス日本側ノ立場ヲ考慮シタル結果ノ一ノ考ニ過キス此点特ニ了承セラレタシト述ヘタルカ更ニ英國示唆案ニ閑スル詳細説明ヲ求ムル為同日専門家会合ヲ催セリ

(三) 第二回日英専門家会合

第二回日英専門家会合ハ十一月七日第三回日英会談後引続キ行ハレ先ツ「チャットフィールド」ヨリ英國示唆案ニ閑シ「サイモン」ト同様ノ説明ヲ為シ、自発的宣言ハ仏伊モ之ヲ為スコトヲ要シ其宣言スル量ハ各協議ノ上之ヲ定メントスルモノニシテ英國トシテハ現存兵力ヲ基準トセント欲ス又各国所要量ノ協定ニハ質的制限ヲ伴フヲ要シ英國ハ小艦多数主義ヲ欲スル旨開陳セリ依テ山本代表ヨリ結局現在ノ比率ヲ基礎トシテ将来ノ兵力ヲ定メントスルモノニ非スヤト質シタルニ「チャットフィールド」ハ然リ「プレステイジ」ニ付テハ之カ均等ヲ認ムルモ兵力ノ均等ハ之ヲ認メスト答ヘ更ニ華府条約ヲ廢止スレハ其結果ハ如何ニト反問セルニ付山本代表ハ華府条約廃止ノ結果米国ハ建艦競争ノ姿勢ヲ取ルコトアルヘキモ其国民ノ大部分ハ英國以上ノ兵力ヲ必要トセサルヘク從テ日英両国ニシテ冷静ナル態度ヲ持スレハ必シモ建艦競争ハ起ラサルヘク万ニ米国カ建艦競争ヲ挑ムトスルモ日本ハ質ヲ制限スルコトナク国防上適當ナル艦種ヲ充実シテ經濟的軍備ルト答ヘ置キタリ

第二節 「サイモン」私案及英示唆案ニ対スル帝国政府ノ態度

帝國政府ニ於テハ英國政府カ我方主張ニ対シ和協的態度ヲ示シ專ラ交渉ノ難点打開ノ見地ヨリ前頭「サイモン」ノ政治的解決私案及建艦宣言ニ閑スル示唆案ヲ提示シタルヲ諒トシ之ニ対シ慎重考慮ヲ加ヘタルカ
(一) 英示唆案ニ閑シテハ元来帝國ニ於テハ單ニ権利トシテノミナラス現実ニ英米両國ト均勢トナルコトヲ要求スルモノナルヲ以テ英國側ニ於テ海軍力ニ閑スル平等及均勢ノ「プレステイジ」ト云フモ現実ニ帝國ニ対シ英米両國ト均等兵力ヲ認メサルニ於テハ帝國トシテ容認シ能ハサル處ニテモアリ且海軍力ノ自発的宣言ニ閑スル英國示唆案カ現有勢力又ハ既存条約ノ比率ヲ基礎トスルモノナルニ於テハ帝國トシテハ之ニ考慮ヲ加フルコト不可能ナリ

(二) 又「サイモン」ノ政治的解決案ニ闇シテハ

(一) 日英米不侵略協定締結ノ趣旨ニハ異存ナキモ既ニ四国条約カ不侵略ノ精神ヲ以テ締結セラレオル以上之
カ期間ヲ延長スレハ可ナルヘシ

(二) 英国ノ在支権益保護ニ闇シテハ帝国トシテ之ヲ侵犯スルノ意思ナキハ勿論支那ヲ侵略セントスルカ如キ
考毛頭ナキニモ拘ラス「サイモン」カ恰モ日本ハ支那ヲ侵略セントスル意図ヲ有スルカ如キ危惧ヲ懷キ
居ルハ帝国ノ心外トル處ナルノミナラス今更メテ日本カ英國ノ在支権益ヲ侵害セスト約束スルカ如キ
ハ却テ面白カラサル影響ヲ招来スル虞アリ日本トシテハ支那ノミナラス広ク世界ニ亘リ日英間利害關係
ノ調節ヲ図リ度キ意向ナリ

トノ態度ヲ決シ十一月十六日松平大使ニ電訓セリ

第三節 「サイモン」私案ニ闇スル交渉

松平大使ハ前題（第三章第二節）訓電ニ接スルヤ十一月十九日「サイモン」ト会見シ帝国政府ニ於テハ政治
的協定ニ闇スルモノト海軍軍縮會議ノ問題トハ全然切離シテ論議シタキ旨ヲ述ヘ日英米不侵略協定ニ闇シテ
ハ殊更斯ノ如キモノヲ協定スル迄モナク同様ノ精神ノ下ニ締結セラレヲル四国協定ヲ更新延長スレハ可ナル
ヘシト思考シタル旨ヲ伝ヘタルニ「サイモン」ハ四国条約ハ島嶼ノミニ關係シ日本本土ヲ含ミ居ラサル処日
本側ニ於テハ右ニテ差支ヘナキヤト質問セルニ付松平大使ハ實際上不脅威不侵略ノ主義ハ此ノ中ニ包含セラ

レヲルヲ以テ右ニテ差支ヘナシト答ヘ又支那ニ於ケル英國ノ権益保護ノ点ニ闇シテハ日本ハ支那ニ於ケル英
國ノ権益ヲ侵害シ或ハ支那ヲ侵略セントスルカ如キ考ハ毛頭有セサル次第ナリト述ヘタルニ「サイモン」ハ
自分ノ考ヘタル点ハ英國ノ権益擁護ハ勿論ナルカ更ニ九カ国条約中ニ包含セラレヲル支那ニ対スル各國ノ責
務ヲ意味シタル次第ナリト答ヘタルニヨリ松平大使ヨリ日本側ニテハ華府條約廃止ト九ヶ国条約其他トハ何
等關係ナキモノト考ヘヲルノミナラス予備交渉招請ヲ受ケタル當初ニ於テ明ニシ置キタル通り海軍會議ニ於
テハ支那問題ヲ論議セサルコト致シ居ル次第ニモアリ更ニ日本側ニ於テハ單ニ支那ト限ラス世界一般ニ亘
リ日英両国ニ利害ノ調節ヲ行ヒ有効且隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ度キ所存ナル旨ヲ開陳セルカ越エテ二十一
日「サイモン」ハ四ヶ国条約継続ノ件ニ闇シ同條約ニ闇連シ和蘭並ニ葡萄牙ノ島嶼タル屬地ニ闇スル権利尊
重ニ闇スル声明アルモ日本側ニ於テハ之モ同時ニ更新セシムル意味ナリヤト問ヒタルヲ以テ松平大使ヨリ更
ニ確カメノ上返答スヘキ旨答ヘ置キタルカ帝国政府ニ於テハ此点ニ闇シ蘭、葡両国ニ対スル四国ノ声明ハ四
国間相互ノ問題トハ關係ナキノミナラス右声明ニハ別段期間ノ定メモナク四国条約ノ存続スル限り有効ナル
ヘキハ勿論ナルヲ以テ四国条約更新ノ場合ニモ右声明更新ノ手続ヲ採ルノ要ナシト認メ十二月三日右ノ趣ヲ
松平大使ニ電訓セリ

第四節 建艦宣言ニ闇スル英國示唆案ニ闇スル交渉

(一) 重光次官、「ドッド」英國參事官會談

十一月十五日在京英國參事官「ドッジ」ハ重光次官ヲ來訪シ本國外務省ヨリノ電訓ニ基キ今日迄ノ會議ノ経過ヲ御知ラセスヘシトテ「先ツ日本側ノ提案ハ第一ニ各國ハ其國防ノ安全ニ付テハ同等ノ権利ヲ有シ軍縮ノ基礎ハ不脅威不侵略ノ主義ニ立脚セサルヘカラス、第二、右不脅威不侵略ノ事態達成ノ為各國間ニ超ユ可カラサル共通最大限度ヲ設定シ其範囲内ニ於テ各國ノ必要ニ応シ国防ヲ整備スルコト、但シ日本ハ右最高限度迄建艦スル必要ハナカルヘキモ右限度迄建艦スル権利ハ之ヲ保有ス第三、主力艦、航空母艦、甲級巡洋艦ノ廃止ノ三点ニアル処各國国防上ノ「バルネラビリティ」ニ相違アルコトニ関シテハ日本側ニモ異存ナク日本代表ハ此理由ニヨリ英國カ日本ヨリモ大ナル海軍力ヲ有スルコトハ「コンフィデンシヤリー」ニ承認セリ日本提案中共通最大限度設定ニ關シテハ英國ハ東洋ニ於テ膨大ナル權益ヲ擁護セサル可カラサルト同時ニ歐州ニ於テモ多数ノ國ヲ相手トシテ国防ヲ考慮スルノ必要アルニヨリ共通最大限度内ニ於テ各國カ自由ニ軍備ヲ整備スルノ日本提案ハ英國ハ之ヲ拒絶セリ

英國提案ハ後出覚書中ニ表示セラレ居ル如クニシテ該提案ニハ日本側ノ主張モ取入レラレタル次第ナリ、若シ軍縮會議不成功ニ終ル場合ニハ國際政治上甚々面白カラサル影響ヲ招来スヘキニ付飽迄協定成立ノ必要アルベシ」

ト述ヘ引続キ右覚書ニ付意見ノ交換行ハレタルカ「ドッジ」ハ右覚書中ニアルカ如ク日本ノ「プレステイジ」ノ問題ハ将来ノ軍縮條約中ニ國家ノ地位ノ同等ナルコトヲ宣言スルコトニヨリ解決サルル訳ナリ又日本ノ代表カ英國カ日本ヨリモ大ナル海軍力ヲ必要トスヘキコトヲ「コンフィデンシヤリー」ニ承認サレタル点ヨリ

見テ覚書ニ示サルル英國提案中ノ大體現存勢力ヲ基準トシテ建艦宣言ヲ為サントスル英國ノ提案ハ至当ノモノト思考スル旨ヲ陳ヘタリ依テ次官ヨリ日本ハ倫敦ニ代表ヲ派遣シテ交渉ヲ為サシメラル次第ナレハ自分ノ意見ハ何等交渉ノ意味ニ非ルコトヲ明ニシタル上日本ノ意向ハ條約上ニテハ現実ニ同等ノ権利ヲ獲得セントスルニ在リ其権利ノ範囲内ニテ如何ニ建艦スルヤハ各國ニ任セテ然ルヘク、斯クシテ「プレステイジ」ノ問題ヲ解決シ、軍縮ノ実ヲ挙ケ進ンテ各國安全感ノ確保ヲ得ントスルモノナレハ英國覚書中ニアルカ如ク将来ノ軍縮條約ニ於テ一切ノ國家ノ地位ハ同等ナルコトヲ宣言スルカ如キ自明ノ法理論ヲ以テ「プレステイジ」ノ問題ヲ解決セントスルモ満足スル能ハス且事実上現存勢力ヲ基準トシテ建艦宣言ヲ行ハントスル英國提案ニモ承服シ難キ旨ヲ以テ應酬セリ

AIDE MEMOIRE.
British Embassy,
TOKYO
November 15th, 1934.

We have informed the Japanese Representative that the suggestion of a "common upper limit" is unacceptable and have given full reasons for our view. We have, however, expressed sympathy with the Japanese desire to eliminate from any future treaty the principle of an inferior ratio, which in their opinion carries an implication of inferiority of status. To meet this difficulty we have suggested that the new treaty should contain, in addition to provisions for qualitative limitation, a solemn and explicit

declaration as to the equality of national status of all parties to the treaty, including the guiding principle that naval strengths should be based on minimum limits required for the national security of the respective powers. The fact that one party accepts for a certain period an agreed programme of construction less than that of another party does not in any way derogate from the principle of equality of national status.

As regards future naval construction we have suggested that this could be regulated by unilateral declarations by each power as to its intentions over a given period, such declarations necessarily being agreed to between the parties before issue. At the same time we have made it clear that, owing to our minimum defensive requirements, we see no justification for any change in the existing relative naval strengths of the British Commonwealth and Japan; so that the programmes contained in the declarations would not in fact for the period covered produce any substantial modification in the existing situation. It is our hope that all these declarations would subsequently be collected together into a single agreed document.

The purpose of the above formula is to remove altogether from the proposed treaty the actual formulation of a ratio, and there is nothing in the proposed arrangement which conflicts with the fundamental principle put forward by the Japanese Representative.

在京英國大使館覚書（一九三〇四年十一月十五日付）

吾人、「共通最大限度」へ提幅べ之ヲ受諾シ得サルコトヲ日本代表ニ通報シ且吾人ノ見解ノ充分ナル理由ハ開示セリ然レトキ如人ハ日本カ地位ノ劣等ヲ含蓄スルモノト思惟スル劣勢比率主義ヲ如何ナル将来ノ条約ヨリモ除去セントスル希望ニ好シテハ同情ヲ披瀝シタリ此ノ困難ニ處スル為メ吾人ハ新条約カ質的制限ノ規定ヘ外ニ一切ノ締約国ノ國家ノ地位ノ平等ニ関スル敵意且明白ナル宣言ヲ包含スくキモトヲ提言シタルカ右宣言中ニハ海軍力カ各國ノ國家ノ安全ニ必要ナル最小限度ヲ基礎トズムハトノ指導原則ヲ含ムヤハトス一締約国カ一定ノ期間他ノ締約国ヨリ小ナル協定建造計画ヲ受諾スルノ事實ハ國家ノ地位ノ平等ノ原則ヲ毫モ損スルコトナハ

将来ノ海軍建造ニ關シテハ吾人ハ各國カ一定期間ニ對スル其意向ニ關シ一方的宣言ヲ為スコトニ依リテ之ヲ規律シ得ベク右宣言ハ當然發表前關係國間ニ協定セハルベキモノナルコトヲ提言シタリ同時ニ吾人ハ我カ最少限度ノ防禦的所要ニ鑑ミ英帝国及ヒ日本ノ現有相對海軍力ヲ変更スル何等ノ理由ヲ見ス從テ該宣言ニ包含ヤハルル詰画ハ實際上所定期間中現状ニ何等美質的變更ヲ齎スモノニ非サルコトヲ明ニセリ吾人ノ希望ハ之等一切ノ宣言カ後ニ單一協定文書ニ集録セハルハコトニ在リ
如上ノ形式ノ田的ハ實際上比率ノ形式ヲ新條約ヨリ全然除去スルハトリ且新取極中ニハ日本代表ノ提示セハルタル根本原則ト抵触スル何等ハ既ナシ

十一月十九日松平大使ハ「サイモン」ト会見シ在京英國大使館ヨリ重光次官ニ手交セラレタル覚書ニヨレハ現在ノ比較的兵力ヲ其儘トシテ変更ヲ許ササルモノノ如ク判然記載シアル處日本政府ニ於テハ軍拡ヲ防ク為ニモ共通最大限ヲ定ムルコトヲ必要ト考ヘヨリ、且之ヲ定ムル場合日本モ此限度迄建造シ得ル完全ナル權利ヲ主張シ居ルモノナリ

唯右権利ヲ實際ニ行使スルヤ否ヤハ各自ノ自由ナルモ此意味ト最大限度迄建造セスト云フコトトハ自ラ別問題ナリ、何レニスルモ英國側覺書ニ示サレタル如キ案ハ日本側ニ於テハ承諾スル能ハスト述ヘタルニ「サイモン」ハ自分カ私案ヲ提出スルニ当リ重点ヲ置キタルハ自發的且一方的ナル点ニシテ現在ノ兵力関係ヲ頭ニ置キタルハ事実ナルモ覺書ニ示サレ居ル如ク明確ニ提案セル次第ニ非ス尚取調フヘシト答ヘタルカ一方同日加藤參事官ハ「クレーギー」ヲ往訪シ本件「エード、メモアール」ニ付事情ヲ質シタルニ「クレーギー」ハ実ハ十一月九日駐日英國大使カ重光次官ヲ往訪セル際予備交渉ノ進展ニ関スル話アリ其節英國提案ニ關シ重光次官ヨリ質問アリタルヲ以テ英國外務省トシテハ今回ノ英國ノ「ザゼスチョン」ニ關シ日本側ニ正確ナル事實ヲ伝ヘ置クコト然ル可シト考ヘ「ザゼスチョン」ノ要旨ト共ニ今日迄ノ会談経過ノ概略ヲ電報シタル次第ナル處大使一時不在中「ドッド」參事官カ之ヲ「エード、メモアール」トシテ提出セリトノ報ヲ受ケ驚愕シヲル次第ナリ英國政府トシテハ今回ノ交渉ハ之ヲ專ラ倫敦ニ於テ行フ考ニテ倫敦及東京又ハ倫敦及華府ニ於テ行フ考ハ毛頭ナキノミナラス英國今回ノ「ザゼスチョン」モ未タ單ナル「ザゼスチョン」ニ過キサルコトハ繰返シ御話申上ケタル通りニテ之ヲ文書トシテ提出スルカ如キハ非常ノ間違ニテ至急其撤回ヲ命シ度ク

考ヘ居ル次第ナリト考ヘタルカ更ニ二十一日「サイモン」ハ松平大使ニ對シ「エード、メモアール」ハ英國政府ニ於テハ何等斯ノ如キ文書ヲ日本外務省ニ提出スル意向ヲ有セサリシモノニシテ之カ提示ハ誤解ニ基キタルモノニ付直ニ之カ撤回方ヲ命シ其手続ヲ了シタル旨申述ヘタルカ本件「エード、メモアール」ハ「ドッド」參事官ヨリノ申出ニヨリ十一月二十一日重光次官ヨリ「ドッド」參事官ニ返却サレタリ尚右会談中「サイモン」ハ松平大使ニ對シ右覺書ニ記載セラレタル現勢力維持ノ点ハ精細ニ過キタル感ハアルモ英國側ノ希望スル処ハ自發的且一方的宣言案ヲ各自提出シ何等契約的基礎ニ基カスシテ相互ニ其建造計画ヲ示シ合ヒ定期間ハ右計画ニ從フコトトシ若シ右計画ヲ変更セサルヲ得サル時ハ何トカ協議スルコトト致シ度シトイフニアル處日本側ハ之ヲ如何ニ考ヘラルルヤト訊ネタルヲ以テ松平大使ハ本件ハ重要ナルヲ以テ山本代表モ同席ノ上協議シ度シト陳ヘ置キタリ

(三) 松平山本両代表及「サイモン」「クレーギー」間交渉

右ノ結果トシテ十一月二十七日松平山本両代表ハ「サイモン」(「クレーギー」同席)ト会見松平大使ヨリ英國側「ザゼスチョン」ニヨレハ一方的且自發的宣言ニヨル建艦計画ハ何等契約的基礎ニ依ルモノニ非ス必要トアラハ変更シ得ルモノナル由ナル處右ノ如クスル時ハ各関係国代表ハ少シニテモ他国ヨリ大ナル宣言ヲ為サントスル結果却テ建艦競争ヲ誘致スル惧アルヲ以テ何カ共通最大限度ヲ設ケテ之ヲ超エサラシムル必要アリ、而シテ日本ハ必スシモ一時ニ其限度迄建艦スルトカ又ハ大海軍國カ一時ニ其限度迄引下カルコトヲ要求スル次第ニ非ス一定期間ヲ置キテ漸次共通点ニ達スル様計画ヲ作ルコトトセハ建艦競争ヲモ防キ又日本ノ

要望ヲモ満シ同時ニ英米ニ対シテモ急激ノ変化ヲ与ヘサルコトナルヘシト述ヘ又山本代表ヨリ右一定期間ノ年数ハ共通最大限ノ設定点如何ニ関係アルヲ以テ具体的ニ英國海軍當局ト協議ノ要アリト述ヘタルカ「サイモン」ヨリ英國側「サゼスチョン」ニ謂フ一方的宣言案ハ何等比率ノ考ニ依ルモノニ非ス又何等拘束力ヲ有スルモノニシテ比率ノ觀念ハ全然排除シ得ヘキノミナラス何等協定ニ到達セスシテ各國カ如何ナル建造計画ヲ為スヤ不明ナル為不安ニ驅ラル状態ニ比スレハ之ダケニテモ遙ニ安感ヲ与フヘシト思考スル旨ヲ述ヘ又「クレーギー」ヨリハ英國側トシテハ例ヘハ五年間ノ建艦計画宣言案ヲ提出スルニ當リテモ質ノ問題ニ関係ナクシテハ之ヲ提出シ難ク又戦艦ハ數ニ於テ縮少スル能ハス巡洋艦ハ増加ノ必要アリ之ニ関シ米國側トハ意見一致セサルモ米國ノ態度ハ從來ニ比シ稍妥協的トナレリト述ヘ且海軍計画ヲ各國カ提示比較スト云フモ右ハ新ニ建造スル艦ノミニ閥スル計画案ニ限ルモノニシテ艦齡超過艦ニ付テハ各國ノ必要ニヨリ之ヲ保存セシメテ差支ナシト考ヘ居ル旨ヲ開陳セリ

四 山本「チャットフィールド」自由会談

右会談ニ鑑ミ我代表部ニ於テハ此ノ際英國「サゼスチョン」ノ専門的問題ニ關シ私的意思交換ヲ表面ノ理由トシテ英國ノ所要兵力ヲ探知スルト共ニ帝国ノ主張ヲ先方ニ透徹セシムルコトヲ適切ナリト認メタルヲ以テ十一月三十日山本代表ハ「チャットフィールド」ト自由会談ヲ行ヒ

山本代表ヨリ目下一般協定ノ代リニ部分的ノ協定ヲ作ラントスルヤノ説アル処帝国トシテハ仮令短期間ノモ

ノニテモ一般的ノ協定ヲ欲スルコトヲ述ヘ英國「サゼスチョン」ノ欠点ハ共通最大限度ヲ定メサルコトニ在リ若シ英國側ニ於テ「コンモン、リミット」ヲ嫌ハルルナラバ Maximum limit in global or in some category ニテモ設定スルヲ要ス、量的最大限アリテ初メテ質的制限ノ問題ニ入り得ヘキモノナルコトヲ述ヘタルカ英國側ニ於テハ其数的要素トシテ左ノ通開示セリ

(イ) 従来述ヘタル英案カ英國ノ建造最大限ナリ

- (ロ) 主力艦二万五千噸(单艦噸数ハ低下シ得ヘキモ米國カ三万五千噸ヲ固執スレハ英國モ同型トス)十五隻、隻数ハ減スルヲ得ス、今後六年間ノ計画トシテ毎年一隻建造シ艦齡ハ三十年トシ古艦ハ廃棄ス
- (ハ) 航空母艦ハ五隻、此ノ六年間ニ二隻ヲ代換ス、单艦噸数ハ低下スルモ可ナリ
- (二) 八時巡洋艦ハ現有十五隻ヲ維持シ将来建造ノ必要ヲ認メス

(ホ) 乙級巡洋艦ハ現有三十三万九千噸ニ毎年三隻ヲ新造シ合計六十隻四十九万一千噸ニ至ラシム
(ヘ) 駆逐艦十五万噸、潜水艦トノ關係上更ニ多數ヲ要スル時ハ旧艦ニテ満足ス
之ニ対シ山本代表ヨリ我方ノ数的要素トシテ左ノ通開示セリ

- (イ) 主力艦ハ大軍縮達成ノ為之カ廃止ヲ希望スルモ差当リ存置ストセハ六隻
- (ロ) 八時巡洋艦六隻乃至八隻

(ヘ) 乙級巡洋艦ハ現有量十万噸余ナルモノヲ十二万噸乃至十三万噸迄增加ス但米國カ航空母艦、一万噸巡洋艦ヲ増加スル場合ハ更ニ考慮ス

(一) 潜水艦十二万噸但シ攻撃的艦種ヲ縮減シ得タル場合ニハ十万噸迄低下シ得ヘシ

次テ「チャットフィールド」ヨリ山本代表ニ對シ今後五、六年間ノ建艦計画ニ於テ日本カ増加スヘキモノヲ問ヒタルヲ以テ山本代表ハ最大限保有量ヲ「チャットフィールド」ノ挙ケタル如ク大ニスレハ日本ハ主力艦及八吋巡洋艦ハ相當建造ヲ要スヘキモ日本ハ日英米共ニ大縮減ヲ為シ之等艦種ハ不建造ノ建前ナルヲ以テ之カ論議ニ付テハ政府ニモ報告シ又専門家ニモ諮ル必要アルヘシト答ヘ置キタリ

(五) 帝国代表ヨリノ情勢觀察報告

其後十二月二日我代表部ハ英國示唆案ニ閲スル英國側ノ説明ヲ観味スレハ右ハ實際ノ勢力ニ閲シテハ現状ニ急激ナル変化ヲ加フルコトヲ避ケントスル希望ナルコト明ニシテ又米國カ既存條約ノ存続ヲ希望シ之ヲ以テ新協定ノ基礎タラシメントスル態度ニハ終始變ルコトナク、仮令現行比率ニ多少ノ改變ヲ加ヘントスル底意ハアルトスルモ帝国ノ主張ト著シキ懸隔アルコトハ否ミ難キヲ以テ英國又ハ米國ヨリ何時予備会商ノ打切りヲ申出来ルヤモ図ラレサル趣具申シ来リ

第五節 帝国ヨリノ私案提出及交渉対策ニ閲スル請訓及之ニ對スル回訓

(一) 帝国代表部ヨリノ請訓

曩之帝国代表部ニ於テハ前頭ノ如キ（第三章第一節乃至第四節）予備交渉行詰リノ状態ニ鑑ミ何トカ会商ノ断絶ヲ防キ其間帝国主張ノ徹底ヲ図ルト共ニ英國側ノ真意ヲモ確メ以テ会商ノ進展ヲ期セントストテ左記ニ

私案ヲ作成シ之ヲ帝国代表部ヨリ私案トシテ英國側ニ提出スルコトノ可否ニ閲シ十一月二十七日付ヲ以テ帝國政府ニ稟申シ来レリ

(イ) 第一案 第一案ハ航空母艦全廃ノ場合ノ提案ナリ

(一) 各艦種每ニ保有シ得ル最大限主力艦三十万噸甲級巡洋艦十万噸乙級巡洋艦以下四十万噸

(二) 「ヤードスチック」主力艦三、甲級巡洋艦二、乙級巡洋艦以下一

(三) (一)ノ噸数ニ(二)ノ「ヤードスチック」ヲ乘シタル換算噸数主力艦九十万噸甲級巡洋艦二十万噸乙級巡洋艦以下四十万噸合計百五十万噸

(四) 各国ハ換算噸数百二十万噸ニ相当スル現実兵力ヲ超過スル兵力ヲ保有スルヲ得ス

(ロ) 第二案 第二案ハ英國側ニ於テ航空母艦ノ廃止ニ對シ強硬ニ反対スル場合ノ提案ナリ

(一) 各艦種每ニ保有シ得ル最大限主力艦三十万噸航空母艦六万噸甲級巡洋艦十万噸乙級巡洋艦以下四十万噸

(二) 「ヤードスチック」主力艦三、航空母艦五、甲級巡洋艦二、乙級巡洋艦以下一

(三) (一)ノ噸数ニ(二)ノ「ヤードスチック」ヲ乘シタル換算噸数主力艦九十万噸、航空母艦三十万噸、甲級巡洋艦二十万噸、乙級巡洋艦以下四十万噸合計百八十万噸

(四) 各国ハ換算噸数百五十万噸ニ相当スル現実兵力ヲ超過スル兵力ヲ保有スルヲ得ス

(二) 帝国政府ノ訓令

帝国代表部ヨリ前記稟申ニ接シ帝国政府ニ於テハ之ニ閲シ慎重考慮ヲ加ヘタルカ帝国カ最初ニ提出スヘキ具

体案トシテハ帝国ノ根本方針タル大軍縮並ニ攻撃的艦種ノ全廃又ハ極減ヲ充分ニ表現スルノ要アルノミナラス予備会商カ何時終始スルヤモ測リ難キ情勢ノ下ニ於テハ政策上ノ見地ヨリスルモ交渉決裂ノ場合ヲ予想シ帝国ノ軍縮精神ヲ一層明瞭ナラシメ置クコト肝要ナリト認メラレタルヲ以テ十一月三十日付ヲ以テ代表部ニ對シ帝国ヨリ最初ニ提出スヘキ具体案ハ代表部ノ考案セル私案ヨリモ更ニ数字ヲ低下シ主力艦全廃ヲモ加味シタルモノトシ、「ヤードスチック」ハ之ヲ第一義的ノモノトスルノ形式ヲ採リ且之カ提示ニ当リテハ日米両国ノ各艦種割当テヲ同量トスル様考慮アリタキ旨ヲ電訓セリ

(三)交渉対策ニ関スル我代表部ノ請訓

其後十二月十一日帝国代表部ハ

其ノ後英側ト接觸ヲ重ネタル處英側ハ大体ニ於テ率直ニ其ノ所要兵力量ヲ開示シタルモノノ如ク主力艦十五隻航空母艦五隻巡洋艦七十隻駆逐艦十万噸ヲ以テ英ノ自主的所要量トシ我代表部側ヨリ右数字引下方ヲ極力勧説シタルモ之ニ応セス帝国カ今一步突キ進ミタル態度ニ出テ具体的試案ヲ示サンコトヲ切望シ又之ヲ期待シ居リ而シテ共通最大限設定ニ關スル我主張ヲ主義上ノ問題トシテ先決センコトハ到底不可能ナルニ付此ノ際ハ「比較的短期間（約六年）ニ亘ル各國ノ建艦計画ヲ提示協議ノ上各自宣言スル英試案ニ依ルト共ニ最大限度ヲ設定」スルノ外打開策ヲ發見シ難シ

ト認メタル趣ヲ以テ現下ノ情勢ニ於テ帝国ノ執ルヘキ対策ニ關シ左ノ四案ヲ具申シ来レリ

(一)必然的決裂ヲ期シ一挙我主張達成ニ邁進スルコト

(二)一時休会スルコト

(三)(1)最大限度ノ設定(2)約六年間ノ各國建艦計画ヲ相互協議ノ上宣言スルコトノ二項ヲ基礎トシテ協議スヘシトノ了解ノ下ニ來年ノ交渉再開ヲ約シテ一時休会スルコト

(四)英間ニ会談ヲ続行シ我方ヨリモ具体的試案ヲ提示スルト共ニ米国ヲモ参加セシメ其ノ具体案ヲ提示セシムルコト（但シ本案ハ米側ノ同意ヲ得難キコト明カナル旨付言アリ）

(四)帝国政府ノ回訓

右帝国代表部ヨリノ請訓ニ接スルヤ政府關係當局ニ於テハ之カ回訓ニ付銳意協議中ナリシ處其ノ後予備交渉ハ後述（第四章第一節参照）ノ經緯ニ依リ休止セラレタルモ非公式會談ハ爾後モ続行セラルルコトトナリタルニ依リ政府ハ十二月二十二日我代表部ニ對シ稟申ノ対策案中(1)ハ飽ク迄協定ノ成立ヲ期スル我根本方針ニ照シ将又英側ノ和協的態度ニ顧ミ有利ナラス而シテ(2)ニ付テハ(1)ハ我方均等要求ヲ主義ニ於テ認ムルモノナルモ(3)ハ今日迄ノ英側ノ申出ハ帝国ノ主張ト相去ルコト遠キニ依リ我方ノ同意シ兼ヌルコトヲ明カニシ予備交渉再開後ノ審議ニ於テハ帝国本來ノ主張ニ付充分考慮ヲ払ハルヘキ旨篤ト申入方回訓シタリ

(五)最高限ニ關スル英側ノ数字

一、曩之十二月十二日英側ハ我方ニ對シ囊ニ我方ニ提示シタル英側建艦計画等ニ關スル数字ノ訂正トシテ(1)航空母艦ハ二隻代換ヲ行ヒ別ニ実驗艦トシテ「イーグル」ヲ保有シ(2)駆逐艦ハ一九三七年一九三八年各一万二千五百噸又一九四一年代換トシテ一万二千五百噸合計三万七千五百噸ヲ建造シ保有量ハ十五万噸トス

(イ)日本ノ潜水艦保有量ハ七万噸トシ外ニ艦齡超過艦ヲ保有スルカ又ハ艦齡超過艦ヲ保有セサルコトトシテ八万噸トスルコト(二)大型乙級巡洋艦ハ一九三六年中ニ起工命令ヲ發シ最後ノニ隻ハ一九三七年ニ起工ス等ヲ申出テタルヲ以テ翌十二月十三日山本代表ハ「チャットフィールド」軍令部長ト會見シ帝国代表部ノ請訓後ニ於テ英國側カ所要兵力量ニ閲スル申出ヲ変更セラレタルハ甚タ遺憾ナル旨ヲ申入レ且我方ニ於テハ英國ノ建造計画ニ付何等之ヲ容認セルモノニ非サルコトヲ明ナラシメ置キタルカ其際英國側ハ最高限度トシテ左記上段ノ数字ヲ開示セリ

(英側ノ数字)

	(我代表部ノ推定噸数)
主力艦 十五隻(二万五千又ハ三万噸)	四五 (万噸)
航 母 五隻	一一
甲 巡 十五隻	一五
乙 巡 二十四万三千八百噸	二四余
驅逐艦	一五
潜水艦	五
計 一一五万噸内外	

(外ニ艦齡超過艦巡洋艦二十隻及驅逐艦若干ヲ加フルモノカ)

我代表部ニ於テハ以上ノ数字ハ最高限トシテ高キニ失スト認メタルニ付我方ニ於テハ英ノ建艦計画ヲ容認セ

ルモノニ非サルコトヲ明カナラシメ置キタリ

第六節 華府條約中存置条項ニ閲スル交渉

(一)十一月二十一日松平「サイモン」会談

華府條約共同廢止通告方ニ閲シ十月三十日松平大使ヨリ「サイモン」ニ申入レタルコトハ既述ノ通リナルカ
(第三章第一節(一))松平大使ハ十一月二十一日「サイモン」ト會見ノ際重ネテ本件我方意向ヲ申入レタル処
「サイモン」ハ英國側トシテハ新協定成立前ニ右通告ヲ為スコトニハ同意スル能ハサル旨ヲ答ヘタルカ英國
側ニ於テハ予テ帝国政府ノ華府條約廢止通告ノ決意堅ク且又英示唆案ニ対シテモ我方ノ態度樂觀ヲ許ササル
モノヲ認メタル為カ協定ノ全般的不成立ニ了リタル場合ノ対策トシテ華府條約条項中ノ一部存続方ニ付考慮
セルモノノ如ク

同日(十一月二十一日)ノ會談ニ於テ「サイモン」ハ松平大使ニ對シ協定不成立ニ終リタル場合ニ於テモ
英國側トシテハ華府條約中(一)太平洋防備制限条項及(二)軍艦建造ニ閲スル通報義務ノ如キハ一般ノ利益ノ為存続
セシメ可然ト思考又量的協定不成立ノ場合ニモ(三)質的協定ヲ行フコト製艦競争防止ニ資スヘシト考フル処
右ニ付スル帝国政府ノ意見如何ト訊ネタルヲ以テ松平大使ハ(一)ニ付テハ各國同意見ナラハ我方ニモ協議ノ用
意アリ(二)ニ付テハ山本トモ相談ノ上御答ヘスヘク(三)ニ付テハ實質問題ノ協定ナキ限り同意シ難キモ更ニ詳細
山本ヨリ説明スルコトトスヘシト答ヘ置キタルカ

〔〕防備条項ニ関スル英側態度ノ変化

其ノ後十一月二十三日英米会談行ハレタル後十一月二十七日松平「サイモン」会談ノ際「サイモン」ヨリ華府条約中存置条項ニ付何等承り得ルヤト訊ネ松平大使ヨリ請訓中ナル旨答フルヤ「サイモン」ハ防備条項存続ニ関シ前申上ケタル所ハ自分ノ私見ナルヲ以テ英國政府トシテハ如何ニ処理スヘキヤ自治領トノ関係モアリ猶判然セスト断レリ

第七節 我方ノ英米日五四四比率提議説

「サイモン」ハ十一月十九日記者団ニ対シ軍縮問題ニ関シテ語リ且質問ニ答へタルカ之ニ関シ各新聞ニ依リ区々ノ報道伝ハリ殊ニ米国記者等ニ於テハ甚タンク異リタル方面ニ之ヲ曲解シ日本ハ英國ヨリ^(ア)大ナル海軍力ヲ認ムルモ米国ニハ之ヲ認メストカ或ハ英米日ニ五、四、四ノ比率ヲ提供セリ等ノ報道伝ハリタル為廿二日松平大使ハ「クレーガー」ニ面会シ右「サイモン」ノ話ハ何トナク日本カ英國ニ対シ他國ニ対スルヨリモ大ナル海軍力ヲ有スルコトヲ認メタルカ如キ印象ヲ与ヘタルモノノ如ク之カ為米国方面ニ於テハ甚シキ曲説流布セラレ居ル处日本ハ英國トノ親善ハ素ヨリ米国トノ親善關係モ重要視スルニ付前記ノ如キ説ノ行ハルルコトハ極メテ遺憾ナリ

実ハ会議ノ当初ニ於テ会議ノ内容ヲ厳秘ニ付スルコトヲ申合セタルヲ以テ我方ニ於テハ右方針ヲ嚴守シ居リタリ日英会談ニ於テ我代表カ英國ノ立場ヲ諒トスル申述ヘ又米国トノ比較ニ重キヲ置キタルコトハ事実ナ

ルモ未タ嘗テ英國ノ海軍力カヨリ大ナルベキコトヲ認メタルコトナシ「サイモン」外相カ新聞ニ報道セハシテアルカ如キ談話ヲ為サレタルカ如キコトハ全ク之無シト信スルモ新聞ニ斯ノ如キ報道カ伝ヘラレタルコトベ甚タ遺憾ナリト述ヘタル処「クレーガー」ハ他国代表部ハ度々新聞記者ニ会ヒ居ルニ拘ラス英國側ハ一回モ余見セサリン為種々苦情出テ已ムヲ得ス前記会見ヲ行ヒタル次第ナルカ自分ノ記憶ニ依レハ外相ハ決シテ英國海軍力ノヨリ大ナルベキコトヲ日本側ニ於テ認メタリト云ハレンコムナク夫レニモ拘ラス米国側ニテ五、四、四ノ比率ノ事マテ英國側ニ於テ述ヘタル如ク云ヒ触ラシ居ルハ實ニ心外ノ至ナリ此ノ点ハ一応打消シ置キタルモ更ニ強ク否定スル積ナリト述ヘタルカ其ノ後英国外務省側ヨリ次ノ如キ打消ヲ発表シ帝国代表部ニ於テモ後頭ノ如キ取消ヲ各新聞及通信社ニ配布セリ

——英国外務省ノ打消——

A report has been circulating in the press that Japan has admitted officially the right of the British Empire to a larger fleet than Japan, but has denied that right to the United States. This is quite untrue. This misapprehension may possibly have arisen from the self-evident fact that the degree of vulnerability of the British Empire is greater than that of any other country, and there has been no disposition in any quarter to deny this fact. But it would be wrong to draw from this the deduction that there is any official disposition to agree that the naval strength of the British Empire should remain relatively

greater than that of Japan.

On the contrary, Japan claims that there should be a common upper limit applicable to all countries, including those of the British Commonwealth of nations.

帝国代表部ノ声明—

Various rumours have been circulated in the press lately with regard to the present naval talks. Some of them say, for example, that Japan recognized a navy for Great Britain larger than for Japan or the United States while others say that Japan proposes a ratio of five-four-four to allotted to Great Britain, the United States and Japan respectively. These rumours are entirely unwarranted and without any foundation whatsoever. Japan has repeatedly made it clear that she is opposed to a ratio system of whatever form, and is determined to do her utmost in the present conversations to reach a reasonable accord, which is based on a principle of common upper limit.

第八節 米仏ノ交渉

丁米トノ交渉

日米間交渉ハ十月末以来行ハレサル他方日英間ニハ頻リニ交渉行ハレ前顯英米日五四四比率等ノ風説ヲ生ス

ルニ至リタル處日米交渉杜絶ノ形トナルハ面白カラサルニ付松平大使ハ十一月二十五、六ノ両日「デーヴィス」ト雑談ヲ交ヘタルカ「デーヴィス」ハ日本カ航空母艦主力艦ノ廃止ニ依リ大軍縮ヲ行ハントスルベ英米カ極東ニ手ヲ伸スヲ封シ支那ニテ自由行動ニ出テンカ為ナリト解スル者多シト述べタルヲ以テ松平大使ヨリハ右ハ甚シキ臆測ナルコトヲ強ク指摘シ置キタルカ尚「デーヴィス」ハ華府條約廃止通告ハ英米ニ相当反動ヲ生スヘキヲ以テ此ノ際暫ク會議ヲ延期スル方都合ヨキカトモ思フ右ハ提議ニハ非サルモ「クリスマス」迄ニハ打切ルコト如何カト考フト述べタルニ依リ松平大使ヨリ猶最善ヲ尽スコト可然ト告ケタリ
一方十月二十七日米国代表部員ノ一員タル米国國務省員「ムーラハ」ハ加藤參事官ニ対シ私見トシテ英國側「ザセスチョン」ヘ中各國ノ「ステイタス」ノ平等ヲ闡明スルコトニ対シテハ米国側ニ於テモ大体異存ナカルヘキモ建艦計劃ニ閑スル一方的宣言ハ実行如何ハシク又量ノ制限ヲ含マサル質ノミノ制限ハ米国トシテモ日本同様贊成困難ナルヘシ華府條約廃止ノ場合ニ於テモ防備制限条項ノミノ存続セハメントノ考ニ至リテハ米国側ハ絶対ニ反対スヘシ米国側トシテハ華府條約廃止ノ場合ニハ海軍條約以外ノ他ノ取極及協約ニヨリ定メラレタル國際間ノ均衡ヲ破ラルルコトナルヲ以テ華府ニ於テ協定セラレタル總テノ事項ニ閑シ再審議ヲ為ササレハ極東ニ於ケル米国ノ權益ヲ保護スルコトヲ得ストノ見地ヲ堅持シ居ルモノナリ要スルニ米国ハ英國ノ「ザセスチョン」ニハ大シテ興味ヲ有シ居ラス米国トシテハ日本カ其根本主張ヲ固持シ居ル限り米国民ヲ納得セシメ得ルカ如キ協定ニ到達スルコトハ困難ナリト考ヘ居ル旨内話シタルカ次テ十一月三十日松平大使ハ更ニ「デーヴィス」ヘ会見シ十一月二十七日我方カ英側ニ語リタルト同様日下我方ニ於テハ英國試案ヲ

基礎トシテ我方ノ希望ヲ貫徹スルカ如キ「フォーミュラ」ヲ探サント努力中ナルカ日本側トシテハ「サイモン」ノ建艦計画宣言案ヲ採用スル場合ニ於テモ其ノ限度ナキニ於テハ徒ニ建艦競争トナル虞アルヲ以テ一定ノ限度ヲ定メ度ク右限度ニ達スルニハ一時ニ行ハストモ相當期間内ニ達シ得ル様ニスルコトモ一案ナリト考ヘ居レリ但シ右相当期間ハ限度ノ程度ニヨリテ異ルヘキヲ以テ今直ニ開示スルコトヲ得スト述ヘタルニ「デーヴィス」ハ華府条約カ各国トモ犠牲ヲ払ヒ交讓妥協ニヨリテ生シタルモノナルコトヲ繰返シ日本側ノ見解ニ対シテハ研究スヘキコトヲ約シタルモ余り氣乗リセサル風ニ見受ケラレタル趣ナリ

次二十二月三日山本代表ハ「スタンドレー」提督トノ私的会談ニ於テ十一月三十日山本「チャットフィールド」会談ノ内容ヲ通報シ英案ニ対スル「スタンドレー」ノ意見ヲ訊ネタル処「スタンドレー」ハ率直ニ陳フヘシト前提シ自分ハ現有勢力一率二割縮減方ノ訓令ヲ有スルニ付何艦種タリトモ増勢ニハ同意シ得ス尚主力艦艦型縮小ニハ同意シ得サルモ砲ハ十四吋ニ引下ヶ得ヘシトノ私見ナリト述ヘタリ

更二十二月十四日山本代表ハ「スタンドレー」ヲ往訪シ十二月十三日山本「チャットフィールド」会見ノ際英側ノ提示シタル内容ヲ伝フルト共ニ右英側ノ考フルカ如キ最高限度ニテハ日本政府ハ到底同意セサルヘキ旨ヲ述ヘ転シテ英側ノ（例ヘハ六年間ノ）建艦計画宣言案ニ関スル「スタンドレー」ノ意見ヲ訊ネタル処「スタンドレー」ハ前頭建艦計画（第三章第四節四及第五節五）ニ対応スル米側ノ建艦計画ニ関シ自分限リノ意見トシテ「チャットフィールド」提督ニモ説明セル所ナリトテ左記数字ヲ示シタリ

乙 巡	甲 巡	航 母	主力艦	
			(卅六年以前)	
			(卅七年)	
			(卅八年)	
			(卅九年)	
			(四十年)	
			(四十一年)	
			(四十二年)	
			五 (第一隻ハ 三萬五千 噸十四吋 第二隻以 降ハ多分 三萬二千 噸)	計
			一 (建造中) 將來ノモ ノハ二萬 二千噸乃 至二萬噸)	
			一八(航空機ノ 着甲板裝 置二八反 對)	
			一〇(小型ニテ 可ナリ)	

	嚮導駆逐艦	逐艦	驅逐艦	潛水艦
四	四	四	四	六
二二	一二	一二	一三	六
一一	一二	一二	一二	六
四	四	四	四	六
一一	一二	一二	一二	六
二二	一二	一二	一二	六
八四(一九四〇)	年頃所要 數二達シ 爾後漸減)	二八	四二	六

依テ山本代表ハ英側ハ主力艦十五隻航空母艦五隻巡洋艦七十隻等ヲ自主的絶対必要量トシテ要求シ居ルモ私見ニ依レハ日本政府ハ主力艦航空母艦ノ如キモノニ斯ル最高限度ヲ認ムルコトニハ到底同意セサルヘキ處最高度ニ関スル米側意見如何ト訊ネタル處「スタンドレー」ハ米国ハ現有勢力一率ニ割減ノ方針ナルカ三国力建艦宣言方式ニ依リ話ヲ進ムルコトトナラハ英米共若干低下ヲ受諾スヘシトノ感想ヲ有スル旨答ヘタリ尚「スタンドレー」ハ日本カ實際ニ兵力ノ均等ヲ獲得セントスルモノナラハ米側モ自ラ信スル「安全ノ平等」ヲ満足セシムヘキ建艦ヲ行ハサルヘカラサルモ建艦競争ノ不幸ナル事態ヲ避ケ建艦計画宣言案ニ依リ比率ノ点ヲ離レテ討議シ得レハ從来ノ比率ニ多大ノ変更ヲ加フルモ米国民ヲ左迄刺戟セスニ落着カセ得ル如ク感スト述ヘタリ

尚十二月二十日交渉ハ休会ニ入りタルカ十二月二十一日「スタンドレー」ハ山本代表ニ対シ前日（二十日）

「チャットフィールド」ニ申入レタル所ナリトテ左ノ通り申入レタルカ右ハ米国代表帰國ニ先立チ本来ノ根本主張ヲ明カナラシメタルモノト認メラレタリ

- (一) 英カ主力艦六隻巡洋艦多数ヲ建造シ日本カ潛水艦ヲ建造スルニ於テハ米側モ之ニ応シテ建艦ヲ要スルモ斯ノ如キハ「スタンドレー」ノ好マサル所ニシテ「スタンドレー」トシテハ一斉縮減ヲ希望シ主力艦ハ六年間ニ隻位トシ其ノ保有量ハ将来十二隻トシタク
- (二) 共通最大限度ヲ定ムレハ日本カ表面軍拡トナルコトヲ明記スルカ如キモノニテ會議ニ成立ヲ困難ナラシムル虞アルニ付之ヲ定メス從来ノ比率觀念ヲ捨テテ單ニ六年間ノ建艦計画ヲ持寄リ談合スレハ一致点ヲ發見シ得ヘシ

(二) 松平大使仏国大使会談

十一月二十二日在英仏国大使ハ松平大使ニ會見ヲ求メ海軍問題ニ関スル日本ノ態度ニ付訊ネタルヲ以テ松平大使ヨリ我方ノ立場ヲ詳細説明ノ上華府条約ニ関スル仏国側意嚮ヲ叩キタル處仏国大使ハ仏国ハ同条約比率ニ不満ナルモ廢止ノ意思ナク之ヲ繼續シツツ多少変更スルコト可然ト考ヘ居ルモ共同廢止通告方ニ関シテハ直接本国政府へ問合セアリタキ旨述ヘタリ

第九節 最大保有量ニ関スル我方具体案開示

其ノ後米代表ノ出発期日（十二月二十九日）迫ルヤ同月二十五日帝国代表部ハ米代表出発前帝国ノ考量スル

具体案ヲ示シ置カサレハ再開後ノ交渉ニ於テ帝国ノ要望ヲ達成スルコト甚々困難トナルヘキ虞アル趣ヲ以テ

試案トシテ

主力艦十隻航空母艦三隻甲級巡洋艦八隻乙級巡洋艦二十萬噸驅逐艦十二萬噸潛水艦八萬噸ノ数字ヲ提示スルコトニ関シ政府ニ稟申シ来レリ

依テ政府関係當局協議ノ結果翌十二月二十六日我代表部ニ対シ

英側提示ノ建艦計画案ニ付テハ此ノ際深入リシテ再開後ノ我方ノ立場ヲ不利ニ拘束セラレサル様注意スルノ要アル處今回具体案ノ提示ヲ要スルニ於テハ帝国ノ根本・主義ヲ明確ニ具現セシムル趣旨ヲ以テ我代表限リノ私案トシテ主力艦六隻（狀況ニ依リ八隻トス尚必要ニ応シ各國同意スルニ於テハ全廢ノ用意アル旨附言ノコト）航空母艦全廢（狀況止ムヲ得ス之ヲ存置スル場合ニハ三隻）甲級巡洋艦八隻乙級巡洋艦以下一括三十五万噸トシテ提示方回訓シタリ

依テ十二月二十八日山本代表ハ「チャットフィールド」（「クレーギー」及「キング」大佐同席）ニ対シ英側ノ内示セル最大保有兵力ハ帝国ノ主張ト著シキ相違アリ到底帝国トシテ受諾シ能ハス且斯ル建艦計画方式ヲ予備交渉再開後ノ討議ノ基礎トスルコトハ帝国ノ同意シ難キトコロナル旨ヲ述ヘタル處「チャットフィールド」ハ我方ノ考量スル具体的数字ヲ訊ネタルニ付山本代表ヨリ、帝国政府ノ考量スル正確ナル数字ハ之ヲ指示シ得サルモ帝国ノ根本主張ヲ数字ニテ表セハ大体戦艦六隻乃至八隻（但シ各國同意スルニ於テハ全廢ノ用意アリ）航空母艦ハ之ヲ全廢シ度キモ已ムヲ得ス之ヲ存置スル場合ニハ三隻、甲級巡洋艦八隻、乙級巡洋

艦以下三十五万噸ナリト伝ヘタル上最大保有量ニ関スル日英ノ数字ニハ斯ノ如キ開アリ自分ハ之力解決策ニ付目下成案ヲ有セスト述ヘタル处英國側ハ頗ル困惑ノ色ヲ示シ英國ノ内示セル数量ハ自主的数量ニシテ縮減困難ナリト繰返シ山本代表ヨリ一旦帰国ノ上本国政府ト打合スヘキ旨述ヘタル上交渉再開ノ時期如何ト問ヒタル处英國側ハ米国側ニ於テハ討議ノ基礎ヲ閑知セサレハ交渉再開ヲ肯セサルモノノ如キヲ以テ再開ノ鍵ハ主トシテ日本側ニ在リト答ヘ更ニ山本代表カ一旦帰国シテ政府ト打合セラ行ハルニ於テハ建造計画ノ方式ヲ討議ノ基礎トスルコトニ日本政府ノ同意ヲ得ル見込アリヤト反問セルニヨリ山本代表ハ政府ト懇談ノ上ナラテハ何トモ結論出来サルモ最大保有量ノ点ヲ解決シ得レハ建艦計画ノ方式ヲ討議ノ基礎トスルコト必シモ不可能トハ思考セス何レニセヨ最善ヲ尽シテ打開ノ途ヲ講スヘキ旨答ヘ置キタリ

同日（十二月二十八日）山本代表ハ「スタンドレー」ニ会見我回訓ノ趣旨ヲ簡単ニ話シタル上英國側ノ最大保有量ニ対スル「スタンドレー」ノ意見ヲ問ヘル處「スタンドレー」ハ米ハ大体現有勢力一率二割減ヲ主張シ例ヘハ主力艦ハ十二隻ニ引下ケ得ルモ英ノ十五隻要求ハ戰時太平洋九隻地中海及北海各三隻計十五隻トスル計画ニ基クモノノ如クナルヲ以テ日本及歐州諸國ノ現有勢力カ変更セラレサル限り之カ引下ヲ應諾セサルヘシト述ヘタリ